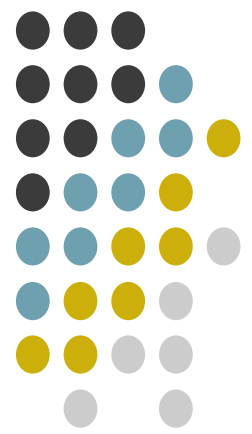




フェローシップ・ニュース 116



謹賀新年

初代のロイ・アッセンハイマー理事長（2006年1月 67才没）

二代目の近藤恒夫理事長（2022年2月 80才没）を経て

昨年4月に三代目の理事長に就任しました

2000年のアパリ創設当初から主に

刑事司法手続の各段階にいる薬物事犯者の人たちに

回復の道筋をコーディネートする

司法サポート事業に取り組んできました

コロナ渦が続くことで孤立によるストレスが増大し

薬物・アルコールの乱用が広がることが懸念されます

関連諸機関と密接に連携して協力していただきながら

これまで以上に充実した支援を行っていく所存です

皆様、本年もどうぞよろしく願いいたします

2023年元旦 理事長 おだまこと 尾田真言



特定非営利活動法人
アジア太平洋地域
アディクション研究所

発行日
2023年1月1日

APARIとは、アジア太平洋地域アディクション研究所 (Asia-Pacific Addiction Research Institute) の略称です。

全国のDARCやMAC等の社会復帰施設、福祉・教育・医療・司法機関と連携しながら、依存症から回復しようとする方々を支援しているシンクタンクです。

目次：

理事長から新年のご挨拶…尾田真言	1
韓国のネット・ゲーム依存対策視察と韓国合同ダルクフォーラム …川口	2
故・近藤恒夫追悼ミサ&メモリアルのご案内 コラム…高橋洋平	5
藤岡ダルク入寮者からのメッセージ…ピツピ 寄付のお願い	6
司法サポートのご案内 家族教室スケジュール	8

令和4年11月の韓国出張

韓国のネット・ゲーム依存対策視察と 韓国合同ダルクフォーラム

一般社団法人AREA AREA高崎 川口航平

日本のダルクはこれまで、韓国における依存症からの回復支援をするため、ダルクの設立などに何年も携わって参りました。コロナが流行する前は現地に足を運ぶ機会も多くあったのですが、ここ数年は訪問もできずにおりました。しかし、ようやく令和4年11月よりビザなし渡航が正式に解禁となり、我々も数年ぶりに韓国に渡航することができました。

今回は藤岡ダルク代表 山本大、三河ダルク代表 松浦良昭他利用者2名、AREA高崎施設長 畑由宇、そして私の計6名での研修となりました。

＜韓国のネット・ゲーム依存対策＞

今回の渡航の目的の一つが、韓国におけるゲーム依存の取組について学ぶことでした。韓国では、2002年にネットカフェにおける86時間という長時間におよぶオンラインゲーム利用が原因で24歳の男性が亡くなるという事件が起きました。これを機に韓国ではネット・ゲーム依存が社会問題として認識され、早くから様々な取り組みが行われるようになりました。そういった意味では、韓国はネット・ゲーム依存対策の先進国と言えます。

そこで、まず訪問したのが「I WILL センター」という若年層を対象としたネット・ゲーム依存の回復支援施設です。同センターが設立されたのは14年前。現在はソウル市内に6か所センターは設置されています。対象年齢は9歳から24歳で、放課後にも通えるよう平日は9時から21時、土曜日は9時から18時に開所しています。依存の問題を持つ子供の多くは「うつ」「不安」「暴力」「自傷行為」「自殺企図」「家族の機能不全」などの重複した問題を抱えているそうです。コロナの影響で利用者は若干減少傾向でしたが、現在はまた増価傾向にあるとのことでした。

同センターの事業の柱は「カウンセリング」「予防教育」「研究」「広報」の4つです。

①「カウンセリング」

来所者を対象としたものだけでなく、必要に応じて出張カウンセリングも実施しているようです。また、プログラムとしてグループミーティングや箱庭心理療法なども実施しています。心理検査にはとても力を入れていて、測定結果は随時プログラムに反映させているそうです。特に本人の依存傾向にとって「危険要因」である「自制心の低さ」「否定的な情緒」「偏った信念（スマホ以外は必要ない！といった）」「自己否定感」「対人スキルの欠如」「人間関係における過敏さ」に関しては、スコアが高い要因を重点的にプログラムを通してケアするとのことでした。

②「予防教育」

子供だけではなく、保護者・支援者に対する教育も実施しています。また、学校では「スマートフォンの代わりにするものを探そう！」といった教育も行いながら、現在センターに通っている子供が学校の子供たちに体験を伝えるメッセージ活動も実施しているそうです。

③「研究」

プログラムに使うテキストなどの開発、実態調査などに加えスタッフ教育などにも力を入れているそうです。



I WILL センターでの説明



歓迎の看板も

④広報

センターおよびキャンペーンの告知を行う他、マスメディアを利用した広報活動も行っています。また、広報活動を通して特別プログラムの外部公募なども実施しているようです。

同センターでは1年に1度、11泊12日におよぶ「治療キャンプ」を実施しています。対象者は中高生20名程度で、センターに通う子供以外に各学校などにも募集告知は行われるようです。キャンプ期間中スマートフォンは預けなければならず、最初は抵抗を見せる子供も少なくなく、特に3日目からは、イライラし感情を乱すなど禁断症状が現れるケースもあるとのことでした。ここで非常に頼りになるのが、メンターと呼ばれる大学生スタッフの存在です。少少年上のお兄さん、お姉さんと一緒に生活し「遊び」「劇プログラム」「バーベキュー」「スマホ以外の楽しみ探し」などを体験していく中で、自分のネットやゲームとの付き合い方を考えていくきっかけとなっているようで、非常に治療効果が高いとのことでした。

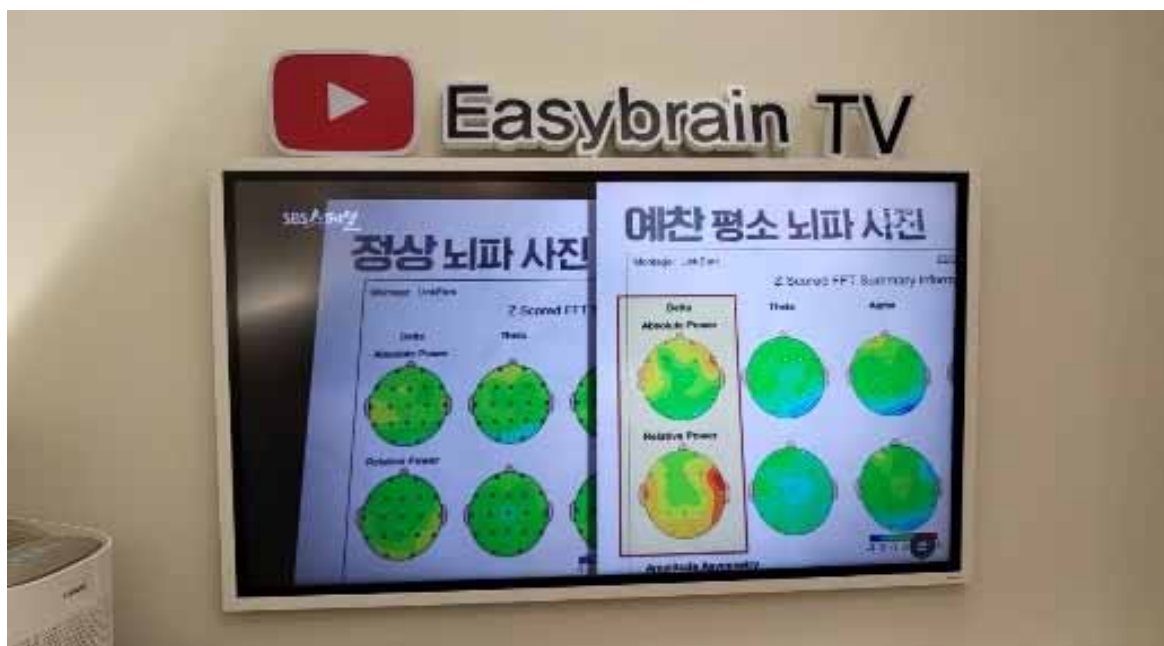
韓国におけるネット・ゲーム依存対策は法律によって定められる24歳までの青少年が中心で、同センターの利用も24歳までとなっています。他方で、成人にもネット・ゲーム依存の問題を抱えている方も存在しますが、ギャンブル問題との線引きも曖昧であることもあり、個人の問題として捉えられてしまうケースも多いそうです。成人対象の支援機関としては「健康家庭支援センター」「スマートレストセンター」などが挙げられていましたが、青少年向けほど充実していないのが現状とのことでした。

同センターは非常に日当たりも良くアットホームな雰囲気、スタッフの皆さんもとてもフレンドリーで我々からの質問にも丁寧に答えてくださいました。通所している子供たちもここであれば安心して通えると感じました。

ネット・ゲーム依存等への医学的アプローチについて比較的新しい治療方法を導入している「イージーブレインクリニック」も訪問しました。ここでは、微弱な電気をヘッドギアから通して脳に直接働きかけさせる治療を行っていました。ドーパミンなどの量を調整し、ゲーム依存症などだけではなくADHDなどの発達障害や鬱の治療も行うそうです。効果を得るには数か月単位および10数回の治療が必要とのこと、保険適用がされない本治療はかなり高額なものだということです。



I WILL センターのスタッフの皆さんと



脳の変化を表しています

＜韓国ダルク合同フォーラム＞

もう一つの、今回の目的は韓国ダルク合同フォーラムの参加と各ダルクへの施設訪問です。日本からの働きかけにより韓国に最初のダルクが設立したのが2012年。その後も紆余曲折を経ながら、地域の医療、行政などと連携をとりながら一歩一歩発展してきたそうです。現在は韓国には、京畿道ダルク、仁川ダルク、釜山ダルクなど施設の数も利用者の数も増えています。

フォーラムでは韓国のダルクへの功労者の表彰も行われ、藤岡ダルクの山本大も表彰と共に立派な盾をいただきました。また、今年残念にも亡くなられた、ソウルダルクのウォンさん、日本のダルク創業者近藤恒夫氏を偲ぶセレモニーも併せて執り行われました。近藤さんは韓国のダルクメンバーからもとても愛されていて、京畿道ダルク代表のイムさんは近藤さんとの思い出を多く語られていました。

会の後半では、各ダルクの利用者からのメッセージが発表され、多くの方が涙ながらに話される姿は心に迫るものがありました。飛び入りではありましたが、私もフォーラムの最後に登壇し、メッセージを届けることができました。

翌日からは各施設を訪問し、利用者の皆さんと直接お話をする機会が得られました。各ダルクには特色があり、京畿道ダルクは若い方が多く活気に溢れる施設、仁川ダルクは規模が小さいけれどアットホームな雰囲気のある就労を目指す施設、釜山ダルクはアルコール依存の高齢の方が多い施設など多様性がありました。共通して言えるのは利用者の皆さんが回復に対して熱心で、日本から来た私たちにたくさんの質問を投げかけてくれたことでした。山本ら日本のダルクメンバーは、ダルクの在り方や存在意義などについて韓国のダルクスタッフに伝える時間も多かったです。

今回はソウル以外の都市も訪問することができました。大邱市では、大邱テドン病院を訪問し院長ならびに患者さんとの意見交換会を行い、釜山市では釜山市役所福祉事務所の方との意見交換、精神保健センター訪問、麻薬退治センターへの訪問も行いました。

釜山市麻薬退治センターでは、薬物事犯で逮捕された方が多く来所されていてミーティングやプログラムを行っているそうです。当日は、利用者の方々も交え、意見交換が行われました。

今回の研修では韓国のネット・ゲーム依存の対策や韓国におけるダルクの活動について詳しく知ることができました。また、依存症という病気に苦しむ人々は日本以外にも同じように存在し、同じように苦しんでいるという当たり前の事を再確認すると同時に、近藤さんが大切にしていた回復のバトンは着実に日本を超えて韓国にも広がっていることを感じることができました。



功労者として表彰 山本大



近藤さんを偲ぶ映像

全国の書店やAmazon等
でお買い求めください！

ダルク
回復する依存者たち
DARC
Drug Addiction Rehabilitation Center
その実践と多様な回復支援 ダルク編

「わたしたちを救った理念があれば、わたしたちは自由でいられる」
**自助グループについての
当事者研究の金字塔**
鎌谷晋一郎
(読者、東京大学大学院総合文化研究センター 准教授)

明石書店
価格：2,000円
(税別)



京畿道ダルク



仁川ダルク



釜山ダルク

故・近藤恒夫(2022年2月27日 80才没)の追悼ミサ
及び 近藤恒夫メモリアルを開催します！
どなたでもご参加いただけます



～追悼ミサ～

日時：2023年2月25日(土)10時～12時
会場：東京カテドラル聖マリア大聖堂 カトリック関口教会
住所：東京都文京区関口3-16-15
交通：有楽町線「江戸川橋」(出口1a)より徒歩15分
JR目白駅より都営バス白61系統「新宿駅西口」行き
JR新宿駅より都営バス白61系統「練馬車庫前」行き
どちらも「ホテル椿山荘東京前」下車徒歩1分

～近藤恒夫メモリアル～

日時:2023年2月25日(土)14時～17時
会場：一般社団法人 全電通労働会館 多目的ホール
住所：東京都千代田区神田駿河町3-6
交通：JR中央・総武線 御茶ノ水駅(聖橋口出口 徒歩5分)
千代田線 新御茶ノ水駅(B3出口 徒歩5分)
丸ノ内線 淡路町駅(A5出口 徒歩5分)
都営地下鉄新宿線 小川町駅(A7出口 徒歩5分)



※お申し込みは不要です。
各会場とも入場制限があるため、入場できない場合もありますので予めご了承ください。
また、どちらも平服にてお越しください。

コラム

新年あけましておめでとうございます

理事・嘱託研究員 高橋 洋平

昨年4月に理事に就任しました。アパリとの強力な連携のもと、弁護士として刑事司法手続にある薬物事犯者を中心に、各人の回復のためのお手伝いをしたい、そのようなミッションを実現すべく日々の活動に取り組んでいます。

恩師である奥田先生との出会いにより始まり、ダルク創設者の近藤さんに学びを得ながら、私の目指すべき方向性が明確になりました。今年も両恩師の想いを胸に刻み、薬物問題に真剣に取り組み、将来にわたるよりよい変化を実現できるように努力していく所存です。

年末年始に薬物を使っておかしくなったという方はいませんか。持つべきはあなたのことを大切に考えてくれる相談相手です。家族であったり、友人・知人、仲間であったり、支援者であったり。あなたを中心に笑顔のネットワークができるようなお手伝いをしていきたいです。

本人はもちろん、家族からの相談も大歓迎です。本人に寄り添いながら(多少時間がかかりますが)、回復の道のりを(できれば楽しみながら)歩んでいきましょう。

新年早々たくさんのお賀状をありがとうございました。不本意な処遇を受けている方もいると思いますが、まずは健康第一で。外に出たらアパリまでご一報ください。再会を楽しみにしています！

本年もひとつひとつの日々の実践を大切に、地道に薬物問題に取り組んでいきます。本年も皆さまのご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

藤岡ダルク 入寮者からのメッセージ

「家族と仕事と薬物と私 不良～真面目」

ピッピ

NPO法人アパリは、群馬県藤岡市にある藤岡ダルクを運営しています。同施設の入寮者からのメッセージをお届けします！



私は57歳になる薬物依存者のピッピです。小さな温泉街で育ちました。観光地や温泉街と言うのは他県の人が多く、ガラの悪い人達がいっぱいて私はそんな中で育ちました。私もそれが心地よくカッコイイと思ってました。家はけして裕福ではなかったが普通の家庭で不自由なく父母に育てられ小・中と高校は父が左官業だったので大工になろうと1年制の高校に出させて頂きました。

職人の父は結構厳しく、「免許や資格は荷物になる物じゃないから何でも取って置け、後は腕に職を付けておけば食うに困らねえ、必ず後で役に立つから。」っと良く言われました。卒業後私は16歳で鳶職の会社に勤め、重機やクレーン、溶接等の免許を若いうちに色々取得したのはそう云う事で、それは今になって役に立っています。本当に父には感謝しかなく、おかげで仕事には困りません。

18歳の頃に知り合った先輩がいて、その人は元不良なのに30代で家族を持ち、家も建て何事にも真剣な人で私はその人に可愛がられよく面倒を見て貰いました。私はその人を尊敬し憧れていました。今思えばその先輩の生き様を真似して生き、「結婚して嫁を貰い、子供達と家を守る」と云う事が私の一生ものの責任だと心に決めつけ執着していたのだと思います。

19歳で父親を亡くし、その年に結婚した私は二人の子供達にも恵まれました。ですが私はバイクに乗り、暴走族をやっていました。そんな私でも家族に不自由はさせないようにと自分のバイクや車の改造代は生活費の他にアルバイト等をして先輩のように働くことを忘れませんでした。

のちに大型トラックで長距離の運転手をやり仕事に没頭するあまり、なかなか家にも帰らず当時の妻の不満が貯まりそれが原因で別れる事になりました。私は家族の為に金を稼ぎ給料だけ家に入れていければいいと自分の立ち位置を見失っていました。何度も大喧嘩をしているうちにある日、嫁の親が大切な子供達と嫁をと連れ去ってしまったのです。

私は何度も連れ戻そうとしましたがそれ以来、子供達に会うどころか声すら聞く事も出来なくなってしまい、それからは私の頭の中には小学一年生と三年生の娘たちの姿しかなく、毎日やけ酒を飲み「自分一人の為なら別に働かなくていい」と仕事も行かなくなり、1日中酒を飲み続けました。そのうち飲んでも飲んでも酔わなくなり、あんなに賑やかだった部屋も広く寂しくなり、遣り切れない思いでもっと酒より強い物を求め覚醒剤に手を出しました。

後悔、反省、遣り直し。この先今まで守り築き上げたもの、どうにもならない自分が嫌になり「もう死んでもいい」 いや、死にたかったのかも知れません。

私は家からも一歩も出ずに、何も食わず眠る事もなく冷蔵庫の物は全て腐っていました。外から車の音がすれば「家族が帰ってきた！」と思い、子供達の声がすれば「自分の子供達がいじめられている」と落ち着きがなくなり、車の急ブレーキの音がすれば「子供たちに何かあったのか」と家から飛び出すあり様で、近所の人に通報され、初めて逮捕され、その後も出所の度にその思いや行動を繰り返し、5度も逮捕され刑務所生活を送りました。

出所後また同じ様では同じ事の繰り返しだし、刑務所生活や、死にたいと云う気持ちになるのももう嫌なので、当時一緒にいた3度目の嫁の勧めもあり私は藤岡ダルクに入りました。

施設に入ったばかりの私は3ヶ月の仮釈放が過ぎたら施設を出ようと思っていましたが、当時の私は沖縄琉球太鼓のエイサープログラムの副番長をやらせて貰った事から段々と考えが変わって来て「何かここで役に立ちたい」と思うようになりました。

藤岡蚕マラソン2022



私はNAミーティング会場等に行く為の車の運転手を希望しました。それは施設で生活している内に色々な仲間と出会い、その仲間達のサポートをすることで「自分の為の他人の為」だと思い、何か変われるような気がしたからです。

ミーティング等で他の仲間達の話聞きそれを自分にあて共感したり、探ったり、見直したりする事で、いろんな角度からいろんな方法で自分を試す度に少しずつ考え方をえられたのかもしれない。

時には施設を出る事も考えましたが、施設から離れる事はいつでも出来る。でも、戻って来るのは難しいし私達は薬物依存者なので又どのような手口で薬物の再使用の思いが襲って来るのか分かりません。社会での生活は何もかもがぶっつけ本番です。でもここでは自分を試したり見直したりやり直しが利くのです。折角ここに携わったのだから繋がっている内に「今しかここでしか出来ない事をしておきたい。」と思い、今私はこの施設の職員になろうと研修生をしています。

私にとってここは薬物依存のリハビリ施設であって病院でもあり、今迄の自分にはない発想や経験、やってみたい事、造ってみたい物など色々と学べる学校でもあります。このフェローシップニュースの文字もここでやり方を覚えたものです。それ迄はキーボードすら触れた事ありません。自分は昔の人間だし刑務所生活が長かったので社会に出た時には時代について行けません。浦島太郎です。

私はトラックドライバーをしていたので各県の町や道には詳しいつもりでしたが、今は新しい道ばかりなので、私がナビると「ピッピナビは古いから更新が必要だ!!」と皆に言われます。こんな私でも皆から慕われパワーを貰いながら寂しい時も辛い時も何とか毎日を過ごしております。

今の私は自分の事を見つめ直し真面目にやっていたらいつか又、普通の生活が出来るかと周りの人達も少しは見直してくれるかと。信用はまだまだ取り戻せないかもしれませんが。でもそれだけを信じ励みにして今をやっています。自分の事は変えられないが、何度も同じ過ちを繰り返していた自分が、今までにないそのような気持ちや考え方をするようになったのも藤岡ダルクに来て、ここでしか味わえない生活やプログラム等を受けたおかげだと思います。

ありがとうございました。これからも頑張りますので宜しくお願いします。



京都ダルクフォーラム

高崎ふれあいの広場
エイサー

マックダルクセミナー

アパリ障害福祉サービス事業への寄付のお願い

私どもNPO法人アパリは、新たに障害福祉サービス事業として、令和5年4月1日に就労継続支援B型事業所の開所を目指すこととなりました。

首都圏に薬物依存症者を支援できる就労継続支援B型事業所がない現状を踏まえ、アパリでは就労段階での回復支援として、就労継続支援B型事業に取り組む決意をいたしました。これまでアパリが行ってきた回復への「入口」支援に対して、今回の就労継続支援事業は社会への「出口」支援と位置付け、今後のアパリの活動の柱の一つと考えております。

しかしながら事業初年度においては、事業所の工事・作業所備品・清掃作業用具・事務用品など初期準備費用で約120万円、社宅の初期費用計約130万円、社宅家賃年間約300万円など、初期費用や社宅家賃で550万円という経費負担が見込まれます。初年度は利用者が少ない状態で運営することになるため、これら経費が賄いきれない負担となってきます。

つきましては、誠に恐縮ではございますが、就労継続支援事業の趣旨をご理解いただき、ご寄付を賜わりたく、ここにお願い申し上げます。

使用目的	就労継続支援B型事業の初期費用・社宅費用に使用	550万円
募集期間	令和5年6月30日（金）まで	
納入方法	ゆうちょ口座番号 0170-0-616579 NPO法人アパリ	
問い合わせ先	NPO法人アパリ（担当：志立・野呂） 03-5925-8848	





特定非営利活動法人
アジア太平洋地域アディクション研究所

アパリ東京本部
〒162-0055
東京都新宿区余丁町14-4
AICビル1階
電話：03-5925-8848
FAX：03-5925-8984
Email：info@apari.or.jp

藤岡ダルク
〒375-0047
群馬県藤岡市上日野2594番地
電話：0274-28-0311
FAX：0274-28-0313
入寮費：月額13万円+生活費
1日千円（初月のみ14.5万円）
（税別）
*生活保護の方も可能
入寮条件：依存症から回復
及び自立をしようとしている
本人。男性のみ。
入寮期間：個人により差が
あります。
<https://fujiokadarc.com/>



2019年7月よりホームページが新しく
なりました。ぜひご覧ください。
<https://apari.or.jp>
<https://www.facebook.com/AsiaPacificAddictionResearchInstitute/>

発行責任者：志立玲子
2023年1月1日発行
定価 1部 100円

＜司法サポートのご案内＞

《薬物事犯で逮捕された刑事被告人に対する支援》

薬物犯罪で逮捕されたら刑務所に行くか、再犯防止に向けた何の取り組みもないまま執行猶予の判決を受け、また薬物のある日常に戻るしかなかった日本において、初めて刑罰以外の再犯防止に向けた取り組みを2000年7月からしています。

保釈中の刑事被告人に対する薬物研修プログラム、情状証人出廷、上申書作成、入寮契約、身元引受契約、出所出迎え、法律相談などあらゆるニーズにお応えします。なお、アパリの司法サポートを利用された方の再犯率は10%以下です。保釈中のプログラムの提供、受刑中の身元引受、出所出迎えをしてリハビリ施設につなげるまでをコーディネートします。

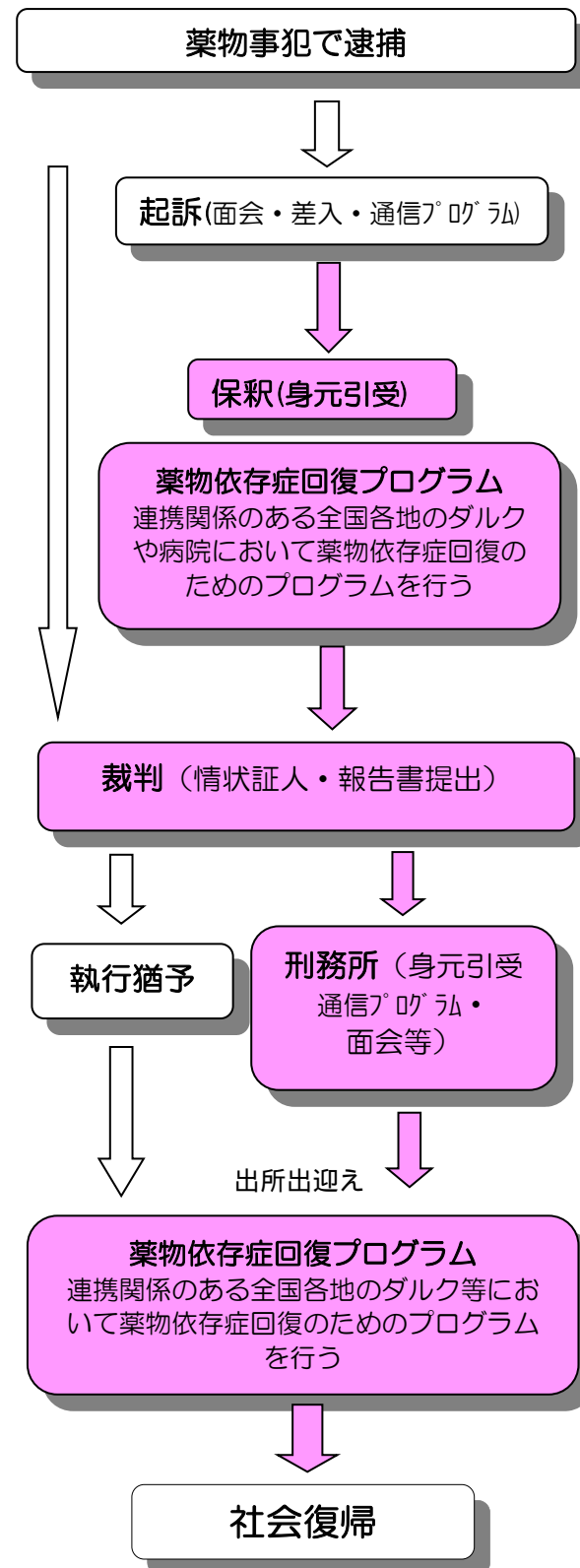
ギャンブルの問題が原因で逮捕された方やクレプトマニアの方の司法サポートも行っています。

[料金：コーディネート費用として20万円(税別)。交通費・宿泊費の実費が別途必要です]

窃盗、横領、詐欺等で逮捕されたご家族の相談もお受けしています。

【お問合せは東京本部まで】

アパリの支援



＜アパリ家族教室スケジュール・東京＞

第1月曜	連続講座	土曜	嗜癮行動家族教室
1/16(月) 13:30～ 18:30～	第3回 薬物依存症の心にある2つの考え	1/14(土) 17:00	第4回 家族関係を考える
2/6(月) 13:30～ 18:30～	第4回 本人・家族の心の成長-自立心・自尊心を伸ばす関わり	2/4(土) 17:00	第5回 リカバリーと回復
3/6(月) 13:30～ 18:30～	第5回 気持ちの回復: 家族自身の気持ちと本人の気持ちの両方を大事にする	3/11(土) 17:00	第6回 虐待の人間関係
4/3(月) 13:30～ 18:30～	第6回 子どもの成長を助ける 関わりについて	4/8(土) 17:00	第7回 治療資源: コミュニティ・ケア

【対象】

○連続講座と嗜癮行動家族教室は全8回ですが、どの回からでも参加できます。

【場所】アパリ東京本部 AICビル1階 ミーティングルーム

【参加費】3,000円（2名以上の場合は4,000円） 【申し込み】不要

土曜日は第1又は第2になりますのでご注意ください。